2012年、山本糾撮影

淺井裕介「植物になった白線@ＡＣＡＣ」

（2012年 クイックシート）

アートの森 ⑳

県内美術館コレクションから

心に留まる感情や記憶

青森公立大学国際芸術センター青森主任学芸員

金子由紀子

青森公立大学国際芸術センター青森（ＡＣＡＣ）の敷地内の5カ所に設置されている「植物になった白線@ＡＣＡＣ」は、作者である淺井裕介さんが2012年の春に開催した個展のために設置した作品です。

同作は、展覧会の準備中に実施したワークショップに集まった、市民の皆さんと一緒に制作されました。道路に直接「止まれ」や「進入禁止」などを書くためのクイックシートという素材が使われており、シートをハサミで切り、地面の上に乗せ、バーナーであぶって定着させています。

ワークショップでは、参加者の方に好きな形を切ってもらって、淺井さんが作った形と一緒に並べて作品にしました。複数の人が作った形が混ざっていても、完成作はしっかり淺井さんの作品になることに、作家としての力量が現れています。

同作だけではなく、泥で描いた全長70㍍以上の壁画やアウガでのサテライト展示など、1カ月に満たない準備期間で膨大な量の作品を制作した淺井さんですが、その制作を支えたのは青森県内、全国から集まったボランティアの人々と、青森公立大学の学生でした。

授業の合間に連日のように顔を出した学生の中にはその後、芸術祭に参加する淺井さんを追いかけてインドまで行った人もいました。また、青森公立大学の「芸術サークル」もこれをきっかけに設立され、アーティストがひたむきに自分の表現を追求する姿には、こんなにも人を動かす力があるのか、ということを強烈に目の当たりにする体験でもありました。

同作は設置から既に9年がたち、今ではほがれてしまっている部分も多く、時間の経過を否が応にも感じさせます。しかしふとした瞬間に、制作時の熱気が思い出され、作品を見ることは、さまざまな感情や記憶を喚起させられることでもあるということに改めて気付かされます。作品は消えても、それにまつわる記憶や感情はそれぞれの心の中に留まります。その個々人の感情や記憶こそは、誰にも侵すことのできない領域であり、だからこそ私たちは、芸術作品を鑑賞することでどこへでも行け、何にでもなれる自由を手に入れることができるのでしょう。

次回は県立美術館の作品を紹介します